

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

| | | | |
|---|---------------------------------|-----------|-----------|
| 1 都道府県・市区町村名 | 青森県 | 2 補助事業の種類 | 地域文化遺産活性化 |
| 3 実施計画の名称 | 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト | | |
| 4 実施計画期間 | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 | | |
| 5 実施計画の概要 | | | |
| <p>青森県は2014年に制定した「青森県基本計画—未来を変える挑戦」のなかで、世界遺産登録を目指す三内丸山遺跡や県内伝統文化を国内外に情報発信し、地域活性化を図ることを謳っている。また、同計画では「2030年における青森県のめざす姿」として「県民は、郷土の歴史・文化に対する誇りや高い意識をもっていきます。また、芸術文化に触れる機会が増えており、郷土の伝統文化や歴史的な文化遺産が県民共通の財産として継承されています。さらに、三内丸山遺跡に代表される縄文文化の価値が国内外に認識されている青森県をめざしております。」としており、そのための具体的な施策として</p> <p>「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指す取り組みや、文化財の保存、公開などの取り組みを通じて本県の歴史・文化を国内外に強力に発信するほか、伝統文化の鑑賞・体験の機会充実を図ることで、次代へ伝えていく。」としている。</p> <p>そこで本県では、青森県基本計画に基づき平成27年度、平成28年度に実施してきた計画を見直し、平成29年度からは新たに2つの実行委員会による事業を行う。</p> <p>「事業1」は、「三内丸山遺跡」の活用を中心とし、ガイドの人材育成や伝統文化の鑑賞機会の充実を図る。</p> <p>「事業2」は、青森県の豊かな伝統文化の保存・継承のため、記録作成や民俗芸能の後継者育成を中心とした事業を実施する。</p> <p>○事業1 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト（三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会）</p> <p>三内丸山遺跡と青森県の伝統文化など多様で豊かな文化遺産を活用し、ガイド等の人材育成や情報発信、普及啓発等を進め、その波及効果を県域全域に広げ地域活性化につなげるため以下の取り組みを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 三内丸山遺跡と県内文化遺産への来訪を促進するための人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ●あおり案内人養成講座の開催 青森県への来訪客に対応し、遺跡や縄文に関する基礎的な知識のみならず、縄文文化を基層とする青森県の魅力あふれる文化を交えて発信するための案内人を養成するため研修講座を実施する。 (各年度開催。各講座50名の参加を目標とする。各年度に5回程度開催予定) 三内丸山遺跡や、青森県の文化遺産・地域の伝統芸能の情報発信・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ●あおり伝統芸能フェスティバル（ワークショップ）の開催 県内各地の伝統芸能を三内丸山遺跡に集結し伝統芸能の上演やワークショップ等を開催する。 (各年度8団体～10団体程度の上演で年度内に1回開催予定) その他青森県の文化遺産の普及啓発と、地域の文化遺産を活かした地域の活性化に資する事業 <ul style="list-style-type: none"> ●各年度の状況により、必要に応じてシンポジウムや企画展等の開催を検討する。 <p>○事業2 青森県歴史文化継承活用事業（青森県歴史文化継承活用委員会）</p> <p>青森県の多様で豊かな文化遺産である伝統文化の保存・継承のため、平成29年度から実施計画を見直し、事業を実施するための専門家や関係者による新たな実行委員会（青森県歴史文化継承活用委員会）を組織し、民俗文化財の保存・継承のための記録作成や後継者養成を中心とした事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県内の民俗文化財及び無形民俗文化財の記録作成（報告書・映像）、ワークショップ等の普及啓発の実施 ●事業で作成した映像記録を活用し、無形民俗文化財の実技指導講習会等による後継者養成事業の実施。 <p>※事業の実施状況に応じて、成果発表の開催も検討</p> | | | |
| 6 実施体制 | | | |
| <p>青森県が本実施計画に関わる全体の企画・調整や各補助事業に関わる指導を行う。 補助事業は次の団体が実施する。</p> <p>○事業1 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会 ・構成団体（青森県、青森県教育委員会、青森県文化財保護審議会、NPO法人三内丸山縄文発信の会、三内丸山応援隊、三内丸山文化観光拠点づくり支援協議会、「青森県の縄文遺跡群」世界遺産をめざす会）</p> <p>○事業2 青森県歴史文化継承活用委員会 ・組織構成 会長 山谷敬（青森県獅子踊保存会会長） 副会長 古里淳（中居林えんぶり組・大神楽会員） 委員 長尾正義（三沢市教委生涯学習課） 田村智和（民俗芸能学会会員） 古川実（青森県民俗の会代表） 連絡調整：青森県教育庁文化財保護課 事業実施団体 尾崎獅子踊保存会 栗山大神楽保存会</p> | | | |
| 7 実施計画における目標と期待される効果 | 別紙①のとおり | | |

| | | | |
|--|---|-------------------------|----------------------|
| 8 補助事業の概要 | (1) 補助金額 | ～平成28年度交付決定額： 23,546 千円 | 平成29年度申請額： 16,864 千円 |
| (2) 実施事業の概要 | | 別紙②のとおり | |
| 9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載） | | | |
| <p>○事業1 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト</p> <p>1. 地域の文化遺産人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおり案内人養成講座 この「案内人」が青森の「語り部」となり、来訪客への「あおり」のイメージアップを図ることで地域活性化につながる。また、若年層を含む県民に対し郷土や青森県の文化遺産への理解と愛着を植え付け、次代への文化遺産の継承の基盤を構築することができる。 <p>2. 地域の文化遺産普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおり伝統芸能フェスティバル（ワークショップ） 県内各地域から複数の伝統芸能の団体を集めフェスティバルを実施することで、伝統芸能の担い手に発表の機会を与え、伝統芸能を保存・継承していくことのモチベーションを高めることができる。また、来場者は鑑賞の機会や体験の機会を得ることで伝統芸能に対する理解を深めることができ、次世代の芸能の担い手になる契機が生まれるほか、郷土への誇りや愛情が培われ、地域の活性化を図ることが期待できる。 また、会場となる三内丸山遺跡が独特の雰囲気醸しだし、県民を含む来訪者が雄大な青森県の歴史と文化遺産に対する感動を深め、文化財を尊重する意識を高めることが期待できる。 <p>○事業2 青森県歴史文化継承活用事業</p> <p>青森県の多様で豊かな文化遺産である伝統文化は後世にきちんと伝えていかなければならないが、このためには伝統文化の保存・継承を担う後継者の養成と記録としての保存・継承がなされることが必要となる。 後継者養成は直接伝統文化の保存・継承につながり、記録作成は、何らかの事情で伝統文化の継承が一時的に止まったとしても、記録をもとに復元されることとなり、伝統文化の消滅の危機を回避することができる。 また、記録は地域住民の伝統文化の理解を深めるための普及啓発に使われるほか、テキストとして後継者養成にも役立つ効果が得られる。</p> | | | |
| 10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など） | | | |
| 事業概要： | <p>○事業1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能フェスティバルについては、三内丸山遺跡の魅力発信のため、同時期に、県事業等を三内丸山遺跡で開催することを検討。相乗効果によるフェスティバルの盛り上がりと集客をはかる。 (参考) 平成28年度は来場者に縄文遺跡の価値や多様な魅力に触れてもらうため、県と連携し同時期に行うそれぞれの事業を「さんまるJOMONの日」の取組と位置づけ実施。県事業などで「縄文大祭典」、「ミニミニ土偶づくり体験」、「Feel The Roots」などの事業が開催された。 | | |
| 事業概要： | <p>○事業2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者養成事業については、各自治体や民俗芸能団体が独自に行っている取組と連携しながら事業を実施することを検討。 | | |
| 事業概要： | | | |
| 11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等 | | | |
| 未定 | | | |
| 12 担当部局 | | | |
| 地方公共団体 担当部局課 | 青森県教育庁文化財保護課 | | |

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

| | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|----------|--------------------------------|----|
| 目標区分 1 : | 地域の文化資源を活用した集客・交流 | | | | | |
| 評価指標区分 1 : | その他 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標 1 : | あおり案内人・養成講座修了者の後年度活動者数 | | | 関連事業 : | 「事業 1」あおり案内人養成講座 | |
| 目標値 1 : | 平成 29 年度 | | 50 % | ⇒ | 平成 33 年度 60 % | |
| 設定根拠 1 : | 養成講座は各年度 50 名参加×5 回開催し、年延べ 250 名のうち平成 29 年度は参加者の 50 % 以上を目指す。各年度に少しずつ目標を増やし、5 年目の平成 33 年度は参加者の 60 % 以上がガイド等の後年度活動を行うことを目指す。 | | | | | |
| 進捗状況 1 : | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | |
| % | % | % | % | % | % | % |
| | | | | | | |
| 目標区分 2 : | 地域の文化資源を活用した集客・交流 | | | | | |
| 評価指標区分 2 : | 地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標 2 : | 地域の文化遺産である三内丸山遺跡への来訪者数 | | | 関連事業 : | 「事業 1」あおり伝統芸能フェスティバル (ワークショップ) | |
| 目標値 2 : | 平成 29 年度 | | 31 万人 | ⇒ | 平成 33 年度 34 万人 | |
| 設定根拠 2 : | 5 年間で来訪者数 10 % 増を目指す。 | | | | | |
| 進捗状況 2 : | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | |
| 万人 | 万人 | 万人 | 万人 | 万人 | 万人 | 万人 |
| | | | | | | |
| 目標区分 3 : | 伝統文化の継承体制の維持・確立 | | | | | |
| 評価指標区分 3 : | 祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標 3 : | 補助事業対象保存会の会員数 | | | 関連事業 : | 「事業 2」青森県歴史文化継承活用事業 | |
| 目標値 3 : | 平成 29 年度 | | 40 人 | ⇒ | 平成 33 年度 40 人 | |
| 設定根拠 3 : | 当該保存会の地域住民人口の減少に鑑み現状維持を設定 | | | | | |
| 進捗状況 3 : | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | |
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | | |
| 目標区分 4 : | 伝統文化の継承体制の維持・確立 | | | | | |
| 評価指標区分 4 : | その他 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標 4 : | 補助事業対象地域の映像記録利用回数 | | | 関連事業 : | 「事業 2」青森県歴史文化継承活用事業 | |
| 目標値 4 : | 平成 29 年度 | | 12 回 | ⇒ | 平成 33 年度 120 回 | |
| 設定根拠 4 : | 対象保存会における利用から、地域の市民団体、社会教育施設、学校等での利用拡大を見込み設定。 | | | | | |
| 進捗状況 4 : | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | |
| 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 |
| | | | | | | |

8 (2) 実施事業の概要 別紙

| | | | | | | |
|----------|---|----------|--------------------------------------|----------------|----------|--|
| 事業①： | あおもり案内人・養成講座 | 実施団体： | 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会 | | | |
| 事業区分： | 人材育成 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 | | | |
| 事業概要： | <p>三内丸山遺跡をはじめとする青森県への来訪客に対し、遺跡や縄文文化に関する基礎的な知識のみならず、縄文文化を基層とする青森県の魅力あふれる文化を交えて発信するための案内人を養成するための研修講座を実施する。</p> <p>遺跡や縄文文化の知識と「あおもり」の文化をミックスして発信することで、三内丸山遺跡をはじめ、青森県への来訪客への「あおもり」に対するイメージの好感度アップが期待できる。また、若年層に対しても地元への関心と誇りを植え付け、次代への文化遺産の継承を図る。</p> | | | | | |
| 評価指標区分： | ・ ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | 養成講座参加者（各年度50名参加×5回＝250名）がガイド等の後年度活動を行う割合を指標とする。29年度は参加者の50%以上、5年目の平成33年度は参加者の60%以上を目指す。 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 50 % | ⇒ | 平成 33 年度 | 60 % | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | |
| % | % | % | % | % | % | |
| | | | | | | |
| 事業②： | あおもり伝統芸能フェスティバル（ワークショップ） | 実施団体： | 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会 | | | |
| 事業区分： | 普及啓発 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 | | | |
| 事業概要： | <p>県内各地の伝統芸能を三内丸山遺跡に集結し上演することにより、青森県の芸能の豊穡さが担い手たちの情熱によって観客に大きな感慨を与え、伝統芸能の継承と関心の向上及び歴史への理解が深まる。計画期間内にできるだけ多くの団体による伝統芸能を上演する。</p> <p>また、計画期間内に伝統芸能に係るワークショップの開催を検討する。県内から小中学生を中心に、普段触れる機会の少ない青森県の伝統芸能に自らが参加することで、伝統芸能への興味につなげ、将来の芸能の担い手作りと同時に地域の活性化につなげる。</p> <p>青森県の伝統芸能に加え、特別史跡三内丸山遺跡で縄文の息吹に触れることで、文化財を尊重する意識を高めることが期待できる。</p> <p>○県内伝統芸能上演（2日間で開催予定）</p> <p>神楽や獅子踊等できるだけ多くの団体に上演してもらい、伝統文化の鑑賞・体験の機会の充実を図る。また、多数の伝統芸能の上演のほか、芸能団体の上演に対するモチベーションを高め、来場者にも通常の祭などで実施している長さでの伝統芸能を鑑賞してもらうことを目的とした上演についても実施を検討する。</p> | | | | | |
| 評価指標区分： | ・ フェスティバル出演団体の保存会会員数 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | フェスティバル出演団体の保存会会員数を指標とし、少子高齢化・後継者不足等の現状を踏まえ、現状維持を目指す。平成29年度の会員数を100%とし、平成33年度の会員数維持を目標とする。 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 100 % | ⇒ | 平成 33 年度 | 100 % | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | |
| % | % | % | % | % | % | |
| | | | | | | |

| | | | |
|----------|--|----------------|---------------------|
| 事業③： | 民具の使い方・生活の知恵体験事業 | 実施団体： | 青森県歴史文化継承活用委員会 |
| 事業区分： | 普及啓発 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 30 年度 |
| 事業概要： | 旧小川原湖民俗博物館の民具資料を活用し、民具の使い方、保管の仕方、手作業の知恵・生活技術などを地元のお年寄り、記録映像などから学び、実際に使ってみる体験事業。 | | |
| 評価指標区分： | ・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 記録映像の利用回数 | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 2 回 | ⇒ 平成 30 年度 10 回 |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 |
| 回 | 回 | 回 | 回 |
| | | | |
| 事業④： | 青森県無形民俗文化財等保存活用事業 | 実施団体： | 青森県歴史文化継承活用委員会 |
| 事業区分： | 記録作成 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 本県の津軽、下北、南部 3 地方の特色ある民俗芸能等の継承活動を行う団体等を毎年度各地方から 1～2 件選定し、映像記録作成を行い、次年度以降の継承活動や地域への普及啓発に活用させる。 | | |
| 評価指標区分： | ・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 記録映像の利用回数 | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 10 回 | ⇒ 平成 33 年度 120 回 |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 |
| 回 | 回 | 回 | 回 |
| | | | |
| 事業⑤： | 青森県無形民俗文化財等後継者育成事業 | 実施団体： | 青森県歴史文化継承活用委員会 |
| 事業区分： | 後継者養成 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 本県の津軽、下北、南部 3 地方の特色ある民俗芸能等の継承活動を行う団体等を毎年度各地方から 1～2 件選定し、映像記録作成の機会を捉えて、継承の意義などを学ぶ講習会などを行い、次年度以降の継承活動や、地域への普及啓発にも活用させる。成果は平成 33 年度に一堂に会した発表会などの普及啓発事業に連結させる予定。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 補助対象団体の対前年度会員数の増減 | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 40 人 | ⇒ 平成 33 年度 40 人 |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 |
| 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | |

| | | | |
|----------|--|----------------|---------------------|
| 事業⑥： | 青森県歴史文化継承ネット形成事業 | 実施団体： | 青森県歴史文化継承活用委員会 |
| 事業区分： | その他 | 事業期間： | 平成 29 年度 ~ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 本県の文化財や学術的な価値のある歴史文化資料の所在情報の共有と、災害時の資料の救出などに向けた連携・協働が円滑にできる資料ネットを形成する。 | | |
| 評価指標区分： | その他 | (具体的な指標は次のとおり) | |
| 具体的な指標： | ネット参加団体数 | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 3 団体 | ⇒ 平成 33 年度 10 団体 |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 |
| 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | | |
| 団体 | 団体 | 団体 | 団体 |
| | | | |
| 事業⑦： | 歴史民俗継承活動重点地域支援事業 | 実施団体： | 青森県歴史文化継承活用委員会 |
| 事業区分： | その他 | 事業期間： | 平成 29 年度 ~ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 本補助事業の記録作成に採択された保存会などの取組と、当該民俗芸能などの概要をリーフレットにし、取り組んだ地域を中心に配布して、継承・活用活動への参加者増を図る。 | | |
| 評価指標区分： | その他 | (具体的な指標は次のとおり) | |
| 具体的な指標： | 保存会などへの新規入会者数 | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | 15 人 | ⇒ 平成 33 年度 60 人 |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 |
| 平成 33 年度 | 平成 34 年度 | | |
| 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | |